

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330112

研究課題名(和文) 近現代日本における都市・農村複合型産業化と生活環境に関する総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive research on urban-rural inter-relational industrialization and living environment in modern Japan

研究代表者

中西 聡 (NAKANISHI, Satoru)

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号：20251457

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近現代日本における産業化と生活環境の相互関係を解明し、これからの社会が、経済成長と環境維持のバランスをとるための知見を得ることを目的とした。その際、20世紀前半の日本における都市・農村複合型産業構造がもっていた経済的危機への対応力を再評価するために、農村工業として展開した愛知県の醸造業と織物業を取り上げ、そこでの有力事業家が、雇用創出とインフラ整備などを通して、地域社会でのセーフティネットの形成に重要な役割を果たしたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research has analyzed the correlation between industrialization and living environment in Japan from early modern to modern times, aiming to obtain suggestions for sustainable development with a balanced urban-rural composition in the future. In particular, in order to re-evaluate the structure of industrialization involving urban-rural interactions in Japan and its potential resilience to economic crises during the first half of the 20th century, we have focused upon the brewing and textile industries in Aichi Prefecture which developed initially as 'rural' industries. Our research has found out that, in those industries, leading entrepreneurs played an important role in the provision of safety-nets in the local community by means of job creation, building of infrastructure, and so on.

研究分野：近現代日本社会経済史

キーワード：産業化 生活環境 近現代日本 都市 農村 醸造業 織物業 愛知県

1. 研究開始当初の背景

アメリカの金融危機の影響で、東海地域の経済は大打撃を受けたが、それは、自動車関連産業に特化しすぎた東海地域の産業構造にも問題があった。近代日本の産業化は、大都市部に主に立地した近代産業と農村部に主に立地した在来産業が、バランスをとりながら成長を遂げ、都市大工業では主に農村からの出稼ぎ労働力、農村工業では主に周辺農家の農閑期労働力が大きな役割を果たしていた。むろん、第一次世界大戦期になると、農村出自の労働者家族が都市で定住するようになったが、恐慌の際には出身農村に戻るなど、都市労働者と農村との関係は残されていた。愛知県では1930年代後半からトヨタ自動車工業がある程度の量産体制に入ったが、農村に立地し、50年代までは、周辺農村からの労働力供給に依存していた。

そうした状況下では、恐慌で職を失った労働者にも戻る場所があり、食料を自給できる生活環境が残されていたと思われる。また、高度成長期までの東海地域には、醸造業・織物業・陶磁器業・機械工業などがバランスよく展開し、ある特定の産業が打撃を受けたとしても、それを他の産業が雇用面などで吸収する弾力性をもっていた。しかし、近年の急速な自動車産業の発展の結果、様々な業種の自動車関連産業への転換が進められ、自動車産業への打撃が東海地域の経済全体への打撃に直結するに至っている。しかも、そこでの労働を、派遣会社が用意した宿舎を住居とする派遣労働者が担っており、失職の際には、彼らとその家族は収入と住居を同時に失うとともに戻る場所もない状況に追い込まれ、治安・健康・教育など社会的不安が増大した。

2. 研究の目的

申請者は、こうした現状に鑑み、かつての日本が社会全体としてもっていた農家副業や兼業、あるいは複数の産業がバランスよく立地する産業構造を、経済的危機への対応力から再評価すべきではないかと考え、今回の研究課題を設定した。その場合の経済的危機は、直接には、収入減と住環境の悪化として生活者に現れるが、家計を通して食生活・健康・教育へと波及し、生活環境全般に影響を与えるため、多面的な分析が重要となる。そこで本研究では、経済史・経営史に加え、教育史・建築史・歴史地理・社会学などの研究者による学際的な研究を試みる。

3. 研究の方法

東海地域の都市・農村複合型産業化の事例として、醸造業・織物業を取り上げ、醸造業は知多半島、織物業は尾張西部(尾西)の実地調査を行い、消費市場である名古屋地域も含め、それら地域の生活環境の変容を分析する。醸造業に関しては、知多半島の半田の醸造家の大量の史料群を共同で整理・分析するとともに、知多半島全体の生活環境の変容に

関して研究する。織物業に関しては、尾西の一宮の呉服太物商の史料群と建造物を共同で調査・分析するとともに、伝統的な一宮の定期市の調査も含めて、尾西地域の生活環境の変容に関して研究する。そして、大消費地であった名古屋地域に尾張西部の織物製品や知多半島の醸造品が流入することで、生活環境がいかに変容したかを、百貨店の活動とも関連させて分析する。これらの研究成果をメンバーが共有するための研究会を名古屋と東京で定期的に開催し、最終年度に研究成果を発表する。

4. 研究成果

第一の研究課題である愛知県半田の醸造家の共同調査は、研究期間内に10数回の調査を実施するとともに、研究も並行して進め、その研究成果を社会経済史学会大会のパネル・ディスカッションで報告するとともに、学術雑誌『社会経済史学』で発表した。さらにその他のメンバーの研究成果も合わせて、全体として共著書にまとめて、平成27年度に刊行される予定である。そこでは、地域志向性と家業志向性から醸造家の経営展開をまとめるとともに、その経営展開や投資行動・寄付を通じての地域貢献などが地域経済に与えた影響について主に論じた。

第二の研究課題である愛知県一宮の織物業産地の共同調査は、研究期間内に10回程度の調査を実施するとともに、研究も並行して進め、その研究成果の一部を学会大会で報告したり、学術雑誌に掲載したりした。特に、尾西産の毛織物類が名古屋市に移出され、百貨店などで販売される一方、名古屋の百貨店から尾西の織物業者が女工のための綿織物を名古屋の百貨店からまとめて購入しており、大都市名古屋と周辺農村が、双方向の衣類の流通を通して密接に関連があったことが明らかにされた。

こうした名古屋の百貨店の動きは、研究代表者が松坂屋を素材として分析し、名古屋の大都市化による消費需要の急速な高まりが、百貨店の大衆化を導き、消費が流通のあり方を変えていく模様を明らかにした。

第三の研究課題である愛知県域の文献・物体調査は、第一の研究課題の醸造業が食文化、第二の研究課題の織物業が衣料文化に関連していたので、残る住環境に関連する産業として陶磁器産業に関連する学際的な文献・物体調査を行った。愛知県には、名古屋市・瀬戸市・常滑市にそれぞれ重要な陶磁器産地が存在しており、いずれの産地について実地調査を行った。

名古屋市では、ノリタケ資料室、名古屋市陶磁器会館、陶磁器センタービルで文献・物体調査を行い、そこに所蔵されている膨大な史料群を整理した。瀬戸市では、愛知県陶磁器工業協同組合で文献調査を行うとともに、原料陶土の採掘場や陶磁器製造工場の見学や業界関係者の聞き取りも行った。そして常

滑市では、トンネル窯の見学、ミュージアムの見学などにより、常滑陶磁器産業の歴史と現状を学んだ。これらの陶磁器産業の実地調査を通して、醸造業・織物業のみでなく陶磁器業の史料群も多数発見できたので、今後はこうした衣食住関連産業の研究を第二次世界大戦後まで視野に入れて行うことで、大都市名古屋の大衆消費社会化との関連を解明できる見通しをつけることができた。それが今後の課題となろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

湯澤規子「近代尾西織物業地域にみる農工関係の変容過程」(『農業史研究』第49号、2015年、41-58頁、査読有)

中西聡「郵便汽船三菱会社の北海道進出と北海道市場」(『三菱史料館論集』第16号、2015年、27-51頁、査読有)

北澤満「三菱合資会社石炭販売代理店に関する一考察」(『三菱史料館論集』第16号、2015年、53-75頁、査読有)

山口由等「地方実業家の不動産所有と経営」(『愛媛経済論集』第34巻第2号、2014年、25-41頁、査読無)

中西聡「萬三商店小栗三郎家の収益構造と地域経済」(『社会経済史学』第79巻第1号、2013年、5-24頁、査読有)

市川大祐「萬三商店の肥料製造と販路開拓」(『社会経済史学』第79巻第1号、2013年、25-43頁、査読有)

井奥成彦「萬三商店の醤油醸造経営と販売戦略」(『社会経済史学』第79巻第1号、2013年、45-62頁、査読有)

石井寛治「知多肥料商萬三商店の仕入決済システム」(『地方金融史研究』第44号、2013年、1-16頁、査読無)

中西聡「両大戦間期日本における百貨店の経営展開」(『経営史学』第47巻第3号、2012年、3-31頁、査読有)

吉川卓治「「家」の子どもたちはどう生きたか」(『豊田市史研究』第3号、2012年、61-74頁、査読無)

[学会発表](計11件)

湯澤規子「共同炊事と集団食からみた尾西織物業地域と周辺農村の近代」(歴史地理学会第57回大会、2014年5月17日、長崎外国語大学、長崎県時津町)

湯澤規子「近代尾西織物業地域および周辺農村にみる生産・生活の合理化とその相関」(2014年度日本農業史学会研究報告会、2014年3月28日、神戸大学、神戸市)

伊藤敏雄「戦間期大阪における食料品輸送と市場」(社会経済史学会近畿部会2013年度夏季シンポジウム、2013年8月23

日、大阪市立大学文化交流センター、大阪市)

西澤泰彦「『日本近代建築総覧』再考」(シンポジウム「建築史学の戦後」)(2013年建築史学会大会、2013年4月20日、金沢工業大学、野々市市)

西澤泰彦「近代建築の評価と活用」(2012年度日本建築学会大会(東海)建築歴史・意匠部門研究懇談会(招待講演)、2012年9月13日、名古屋大学、名古屋市)

西澤泰彦「大学の建築群が伝える時代の記憶」(2012年度日本建築学会大会(東海)都市計画部門研究懇談会(招待講演)、2012年9月12日、名古屋大学、名古屋市)

中西聡「小栗三郎家の事業構造」(社会経済史学会第81回全国大会パネル・ディスカッション、2012年5月13日、名古屋大学、名古屋市)

井奥成彦「萬三商店の醤油醸造経営」(社会経済史学会第81回全国大会パネル・ディスカッション、2012年5月13日、名古屋大学、名古屋市)

市川大祐「萬三商店の肥料商経営」(社会経済史学会第81回全国大会パネル・ディスカッション、2012年5月13日、名古屋大学、名古屋市)

牡鹿史典、森一朗、是澤紀子「一宮市起の鋸屋根工場に関する基礎的研究」(2011年度日本建築学会大会学術講演会、2011年8月25日、早稲田大学、東京都新宿区)

中西聡「近代前期の逸身家と大阪金融界」(2011年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会自由論題報告、2011年10月22日、立命館大学、草津市)

[図書](計1件)

山口由等『近代日本の都市化と経済の歴史』東京経済情報出版、全237頁、2014年

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中西 聡 (NAKANISHI, Satoru)
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：20251457

(2) 研究分担者

山口 由等 (YAMAGUCHI, Yoshito)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：90326009

井奥 成彦 (IOKU, Shigehiko)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：60184371
平成 23 年度は連携研究者
平成 24 年度より研究分担者

北澤 満 (KITAZAWA, Mitsuru)
九州大学・大学院経済学研究院・准教授
研究者番号：10362261

小堀 聡 (KOBORI, Satoru)
名古屋大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：90456583

吉川 卓治 (YOSHIKAWA, Takuji)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・教授
研究者番号：50230694

西澤 泰彦 (NISHIZAWA, Yasuhiko)
名古屋大学・大学院環境学研究科・教授
研究者番号：80242915

溝口 常俊 (MIZOGUCHI, Tsunetoshi)
名古屋大学・名誉教授
研究者番号：50144100
平成 24 年度まで研究分担者
平成 25 年度より研究協力者

堀田 典裕 (HOTTA, Yoshihiro)
名古屋大学・大学院工学研究科・助教
研究者番号：00283391
平成 23 年度は研究分担者
平成 24 年度より連携研究者

(3) 連携研究者

花井 俊介 (HANAI, Shunsuke)
早稲田大学・商学大学院・教授
研究者番号：70212149

中村 尚史 (NAKAMURA, Naofumi)
東京大学・社会科学研究所・教授
研究者番号：60262086

落合 功 (OCHIAI, Kou)
青山学院大学・経済学部・教授
研究者番号：10309619

市川 大祐 (ICHIKAWA, Daisuke)
北海学園大学・経済学部・教授
研究者番号：20364226

宮地 英敏 (MIYACHI, Hidetoshi)
九州大学・附属図書館付設記録資料館・准教授
研究者番号：90376575

大島 朋剛 (OSHIMA, Tomotaka)
兵庫県立大学・経済学部・准教授
研究者番号：20619192
平成 23 年度は研究協力者
平成 24 年度より連携研究者

中西(二谷) 智子 (NAKANISHI (FUTAYA), Tomoko)
愛知学院大学・経済学部・准教授
研究者番号：60734853
平成 25 年度まで研究協力者
平成 26 年度は連携研究者

田村 均 (TAMURA, Hitoshi)
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：40201628
平成 24 年度より連携研究者

三木 理史 (MIKI, Masafumi)
奈良大学・文学部・教授
研究者番号：60239209

内藤 隆夫 (NAITO, Takao)
東京経済大学・経済学部・教授
研究者番号：60315744

是澤 紀子 (KORESAWA, Noriko)
名古屋工業大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：40431978

湯澤 規子 (YUZAWA, Noriko)
筑波大学・生命環境系・准教授
研究者番号：20409494

石井 里枝 (ISHII, Rie)
愛知大学・経営学部・准教授
研究者番号：00609604
平成 24 年度より連携研究者

早川 大介 (HAYAKAWA, Daisuke)
愛知大学・経済学部・准教授
研究者番号：40613980
平成 24 年度より連携研究者

黒田 由彦 (KURODA, Yoshihiko)
名古屋大学・大学院環境学研究科・教授
研究者番号：30170137

永島 剛 (NAGASHIMA, Takeshi)
専修大学・経済学部・教授
研究者番号：00407628

三上 敦史 (MIKAMI, Atsushi)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：30362304

中元 崇智 (NAKAMOTO, Takatoshi)
中京大学・文学部・准教授
研究者番号：90609174
平成 23 年度は研究協力者
平成 24 年度より連携研究者

中村 一成 (NAKAMURA, Kazunari)
上武大学・ビジネス情報学部・講師
研究者番号：30634042
平成 23 年度は研究協力者
平成 24 年度より連携研究者

満園 勇 (MITSUZONO, Isamu)
北海道大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：40735750
平成 25 年度まで研究協力者
平成 26 年度は連携研究者

(4) 研究協力者

石井 寛治 (ISHII, Kanji)
東京大学・名誉教授
研究者番号：20012122
平成 24 年度より研究協力者

伊藤 敏雄 (ITO, Toshio)
大阪大学・非常勤講師
研究者番号：30637484

服部 亜由未 (HATTORI, Ayumi)
愛知工業大学・研究員
研究者番号：70708370

松木 孝文 (MATSUGI, Takafumi)
大同大学・教養部・准教授
研究者番号：90589269

加藤 諭 (KATO, Satoshi)
東北大学・研究教育支援者